

劇団あおきりみかん 其の参拾参

# 『だるい女』

作・鹿目由紀

登場人物

小池みゆき

小池周

石田幸太郎

夏樹ルイ

折原志摩子

藤原百合

神崎素子

森村博行

はながら

ふりそで

パーカー

ワンピース

エプロン

しましま

どこ、というわけではない。  
なんとなく、胎内のような空間。

その真ん中。  
みゆきが、寝転がっている。

どこからともなく女が椅子を出してきて、座る。  
日記を開く。

女

3月10日。木曜日。

排卵日というのが、いつ頃あるものなのか、さっき ネットで調べてようやく分かった。けれど私は生理不順で、基礎体温もつけていない。今までそんなこと考えたこともなかったのだ。32歳になるまで。バカじゃなからうか。でも、さすがにちゃんと考えなきゃいけない。今日も部屋にいる。だるい。このだるさはなんだろう。なにもやりたくないの、彼にごはんを作ってもらう。なにもやらないことが社会的にいいわけがないとは分かっている。資本主義の国に生まれた以上、働き、稼ぎ、きちんとした社会生活を営むのは当然の義務なのだ。なんて建前を書くのはやめにしよう。いいか、働きたくないもんは働きたくないんだ。前向きってなんだよ。どっちが前かも分かんねえよ。そんなこと考えてころころしながら、今日改めて、一人暮らしの自分の部屋を見回した。

みゆき、いなくなる。

女はそのまま日記を見ている。

2015年8月。

それらしき椅子が出たので、喫茶店のようだ。  
蝉の鳴き声。風鈴の音。

小池周平、折原志摩子と藤原百合が座っている。  
百合はスマホをいじっている。  
カウンターにはマスターの森村博行。

志摩子  
周平  
志摩子

こんなお若い旦那さんだなんて。  
そう若くもないんですよ。見えるだけです。  
そうなんですか。

周平 ええ。見えるだけです。

森村が水を持って来る。

森村 お久しぶりです。

周平 お元気そうで。

森村 お幸せそうで。

周平 いやいや。変わらないですね。ここは。

森村 変わらないのが売りですから。みゆきちゃんも元気そうで良かった。

周平 まあなんとかやっています。

森村 いらっしやいませ。

志摩子 初めて入りました。ここ。

周平 あ、そうなんですか。

志摩子 ええ、お店は知ってたんですけど、入ったのは初めてです。

森村 何にしますか。

周平 何でも美味しいですよ。

志摩子 私、アイスコーヒーお願いします。

百合 アイスココア。

周平 僕はホットコーヒー。スペシャルで。

森村 やっぱ真夏でもホットだよ。みゆきちゃんどうしよう。

周平 おんなじものでいいと思います。

森村 スペシャルはちょっとお時間いただきます。

周平 ゆっくりやってください。

森村 了解。

森村がカウンターに戻る。

志摩子 …なにしゃべったらいんでしょうか。

周平 悲惨な話であれば、なんでも。

志摩子 そう書いてあったので色々考えて来ました。

周平 ありがとうございます。

志摩子 上手く話せるかはともかく、悲惨な話は色々持っていますので。

周平 妻も喜びます。

百合 凄いですよ。つぶやいたらリツイートしまくられています。

周平 実名だけ勘弁していただければ。

百合 その辺は心得てますから。実況はまずいですよね。

周平 実況ですか。

百合 こういうの実況すると盛り上がるんですよ。

志摩子 さすがにそういうのはまずいんじゃないですか。

百合 そうですかね。

志摩子 そうですよ。これは人助けのための真面目な会合なんですから。

百合 でもね、自分より悲惨な人の話を聞いて元気を出す会』って2ちゃんとか

で一番盛り上がりそうなネタなんですよ。

周平 すみません、変な募集をしてしまいました。

百合 いやいや、募集してるの見た時これだと思いましたよ。これは私のためにあ

る会だと。

志摩子 私もそう思いました。

周平 ありがとうございます。

みゆきがトイレから戻ってくる。

みゆき すみません。ちょっと緊張しちゃって。

みゆきが現れるのと同時に、

志摩子の後ろに 『パークの男』、

百合の後ろに 『ワンピースの女』、

周平の後ろに 『振り袖の女』が立つ。

マスターの後ろには 『エプロンの女』。

エプロンの女はエコバッグのような物を頭からかぶっていて顔が見えない。

みゆき …。

周平 見えるのか。

みゆき うん。

志摩子 見える？

周平 あ、いえいえ何でもありません。…じゃ、改めて。この度は小池みゆきのために集まって頂き、ありがとうございます。私たちは3年前の6月に結婚しました。それからずっと子どもが欲しいと思っています。でもなかなかできず、はじめはタイミング法をやってみたのですが、上手く行きませんでした。タイミングってつまり出来そうな時に、その…

志摩子 やる。

周平 …はい。二人とも検査しましたが問題ないと医師からは言われました。他に

もあれこれ試しましたし、この3年間、そのことだけを考えてきたと言っても過言ではないんです。でもなかなか出来ません。

ふりそで  
この人嘘ついてる。

周平  
みゆきはすっかりノイローゼ気味になってしまい、

みゆき  
ノイローゼじゃないよ。何度も言ってるでしょ。

周平  
私たちの関係も上手く行ってるとは言いがたい。

志摩子  
上手く行っていないと、そういう行為に及ぶのも難しくなりますよね。

周平  
お恥ずかしながらそうなんです。やはりこつこつというのは気持ちの問題で、義務

的になってしまうと上手く行かないというか…。

ふりそで  
嘘ついてる。

みゆき  
ふりそでを見る)

周平  
みゆき。

みゆき  
あ、ごめんなさい。

周平  
みゆきは今は仕事もやめていまして。

みゆき  
最近なんだか無性にだるくなってしまっ

志摩子  
だるくなる。

周平  
いや病気ではないんですが。幸い、私は役所勤めでそれなりに安定はしてい

ますので、なんとかなっている次第です。

志摩子  
無理して逆に悪くなってもね。

周平  
ええ。で、考えてみたんです。世の中には、私たちよりも大変な思いをされ

ている方が沢山いらっしゃる。テレビや新聞、雑誌、ネットを見ても、本当

に悲惨な状況の方々ばかりで、私たちの悩みなどちっぽけなものだと感じ

る。しかし、実際に聞いてみないと情報だけでは現実感がない。そこで今回

の募集に思い至った次第です。

百合  
なるほど。で、ヤフー知恵袋に。

カラコロンカラーンと入口のベル。

神崎素子が入ってくる。

周平  
あ、…違うか。

森村  
いらっしやいませ。

みゆき  
あれ…？

周平  
どうした。

みゆき  
ううん。

マスターが椅子を持って来る。

少し離れた席。

じっとみゆきたちの方を見ている。

志摩子

なんかこっち見てますね。

みゆき

あの人じゃないんだよね。

周平

違うはずなんだけどな。聞いてみるか。すみません。

素子

目をそらす)

周平

違うな。

みゆき

そうだね。

周平

正直、会って話を聞かせてくださいと書いて、一人でも来てくださるのか不

安でしたが…、誠に感謝しております。

ちようど良かったんです。私も誰かと話したくて…。

ありがとうございます。

周平

後からもう一人いらっしやるのですが、まずは折原さんと藤原さんのお話を

聞かせていただけますか？

分かりました。じゃ、まず私から。

志摩子

お願いします。

周平

素子に水を出す) いらっしやいませ。

森村

ホットコーヒー。

素子

普通のか、スペシャルか、

森村

普通の。

素子

かしこまりました。

森村、カウンターの奥に引っ込む。

素子が髪を持ち上げる。

素子の背中にカメがくっついてる。

みゆき

ああー！

周平

どうした。

みゆき

え？…あ、いやなんでも。

周平

お願いします。

志摩子

…折原志摩子と申します。私は、つい一ヶ月前までストーカーをやっていたま

百合

被害にあった方じゃなくてですか？

志摩子

違います。私がストーカーだったんです。

パーカー

ストーカーじゃないよ。

みゆき ストーカーじゃないの？

志摩子 いえ、ストーカーだったんです。

パーカー ストーカーじゃないよ。お前は。

周平 初めて会いました。本物のストーカー……さんに。

志摩子 元カレをストーキングしてたんです。でもその自覚はありませんでした。私は33歳で、彼は私より5歳年下でした。私たちは結婚を前提に付き合っていたんです。お揃いの指輪も買いました。でもある日突然彼から別れようと言いだされました。なんで、と問い詰めても気持ちが無くなったとしか言われませんでした。私は彼に女が出来たのだと思いました。それから毎日、彼が通勤に使う車で、彼の動向を探りました。ある雨の日、彼が見た事のない女と一緒に改札を出るのが見えました。二人は私が彼に買ってあげた、バリーリーの傘の中に身を寄せながら、彼のアパートに入って行きました。騙された：私はそう思いました。電話には出なかったので毎日メールを送り続けました。ラインでもしつこく。

周平 どんなメールですか。

志摩子 「一番多く送ったのは 死ね」ですね。それから 死んでやる」「この詐欺師」

目の前で死んでやる」「車にひかれて死ね」どこにいても見てるからなとかですかね。

周平 ……凄いですね。

森村 お待たせしました。アイスコーヒーですね。

志摩子 ありがとうございます。

森村 アイスココアね。

百合 はーい。

森村、いったん去る。

志摩子、アイスコーヒーを飲む。

志摩子 相手の女の名前も調べ、そこから住所を割り出し、女が他にやましいことをしていないか調査しました。女はいつもミニスカートでよく飲みに出歩いていました。男友だちばかりで飲むのはストロベリーなんとかかカルーアミルクとか、いかにも男子ウケのしそうなものばかり。ボディタッチも多くて凄くだらしない女に見えました。あんな女より私の方が絶対に彼を幸せに出来る、そう思いました。女の連絡先も調べ毎日メールを送り続けました。女のアパートのポストに脅迫めいたポストイニングをやり続けました。彼の自宅のポストにも、女の飲み会でのだらしない写真を毎日毎日入れ続けました。



百合 その時間はどうやって捻出するんですか？

志摩子 会社は9時5時で事務の仕事でしたが残業も多かったので、主な活動時間は早朝と深夜です。場合によっては昼休みにダッシュで抜け出してポストインだけしてきたり、メールは職場から上司の目を盗んで逐一送っていました。

周平 凄いですね。

志摩子 正しい事をやっている、そう思い込んでいたんです。

周平 で、どうなったんですか。

志摩子 彼が警察に言いました。

パーカー あれは後悔してる。

みゆき 後悔してる？

志摩子 ええ後悔してます。ストーカー規制法で、警察から警告を受け、彼には近づけなくなりました。それが周囲に漏れて会社も辞めました。妹からは絶縁されて、両親は腫物にさわるように私に接します。当然の結果なんですけど。じゃ、彼のことは諦めたんですね。

周平 今でもいつか戻るんじゃないかと思っています。

周平 ……どうしてそう思うんです。

志摩子 その希望が無くなったら…私、死んでしまいます。

周平 生きるために希望を持つとうとしてるんですね。

志摩子 はい。

周平 悲惨だな。

みゆき ……うん。

百合 凄いな。

志摩子 つぶやかかないでくださいね。

百合 つぶやきませんよ。そんなガチのヤツ。

パーカー お前はそんな人間じゃないだろう。

みゆき そんな人間じゃない？

百合 そうですよ、私はそんな人間じゃありません。

みゆき あ、そうじゃなくて…

志摩子 みゆきさんのお役に立てたでしょうか。

みゆき はい。それはもう。

志摩子 やった…。私も話したらラクになりました。

パーカー お前はまともな人間だよ。

周平 藤原さんのお話も聞かせてください。

百合 私は、ネット漬けの生活を送ってます。

周平 つまり、ネット依存ですか。

百合 そうですね。

周平 大変だな。

みゆき うん。

百合 うちに帰ったらほとんどPCの前から動きませんし、外にいる時もこんな感じで、スマホを離せません。

周平 どうしてですか。

百合 私、月に1回ケーブルテレビのリポーターみたいなことしてるんですけどタレントさん！

百合 いや、そんなたいしたもんじゃありませんけど、それでね、ある日ネットの掲示板で自分のことデイスってるのを見つけたんです。

周平 デイス…

百合 悪口ですよ。「わが街探検隊」の藤原百合、クズ、カス、低能、底なしのキモさ、キモ原百合」って。それからというもの、自分のことがなにか書かれてないか調べずにはいられなくなっちゃって。そこからどんどん深みにはまって、こないだも 藤原百合ってちょっと剛力彩芽に似てる」っていうの見つけて、そこからはもう剛力彩芽の画像検索して、自分とどこが似てるのかを8時間検証しました。

周平 それは、抜け出したいんですか。

百合 抜け出したいですよ。でもやめられないんです。つい手が伸びちゃうんです。なんでもネットで調べるし、あと一番はネットゲですね。

周平 ネットゲ。

百合 『コンピュータフルワールド』です。

周平 …は？

百合 MMORPGですよ。ビューワーです。

周平 日本語ですか。

みゆき ゲームだよ。『コンピュータフルワールド』。

周平 お前知ってるのか。

みゆき ちょっとね。

百合 今はビューワーが私の人生そのものだと言っても、過言ではないです。つき合ってる人は？

百合 いたんですけど、私が時間のかかるサブクエストに夢中になって、しばらく引きこもってる間にいなくなりました。

周平 サブクエスト。

みゆき ゲームの中でちょっと脇道にそれた冒険シナリオだよ。

周平 お前知ってるな。

百合 でもま、今はネット内で三人とつき合ってるんで。

周平 ネット内で！

百合 はい。

周平 それは本当の意味でつき合ってるんでしょか。

百合 顔は知らないですけど好きですよ、三人とも言動がイケメンなんで。

志摩子 それって悲惨なんですかね。

百合 は？

志摩子 なんかに楽しんでもるように聞こえるんですけど。

百合 私は私なりに悲惨ですよ。いつも死にたいって思ってるし。

志摩子 好きなゲームやって彼氏いてタレントさんで、いいことばかりじゃないですか。

百合 気に入らなかつたら相手に発散しちゃうようなストーカーさんには分かりませんよ。

志摩子 私が簡単に発散してるみたいな言い方しないでください。

周平 ま、人によって悲惨の尺度は違いますから。な。

みゆき うん、お話参考になりました。

百合 ホントですか。良かったー。

ワンピース 私を殺したくせに。

みゆき 殺した？

百合 殺した？

ワンピース なんで殺したんだよ。

みゆき あなたなに言ってるの。

周平 どうしたんだ。

ワンピース なんで私を殺したんだよ！

みゆき …ちよっとごめんなさい。

みゆき、立ち上がる。

みゆき …あの、こんなこと言っても信じないかもしれないんですけど。

周平 それ言わない方がいいんじゃないか。

百合 なんですか。

みゆき 後ろに女性がいます。

百合 は？ 振り向く

みゆき 藤原さんの後ろに…髪がこれくらいで紫のワンピースの女性がいます。

百合 …なに言ってるんですか？

みゆき 藤原さん、その女性となにかありました？

百合 さあ。

みゆき　もっと言えば、その女性をその  
周平　もうやめとこう。  
みゆき　殺しましたか？  
百合　は？なんで私が。  
みゆき　私を殺したって。  
百合　は？  
みゆき　藤原さんが私を殺したってその女性が言うんです。  
百合　なんですかそれ！

森村が出てくる。

森村　どうかしましたか？  
周平　大丈夫です。とりあえず座ろう。　素子に）すみません。

みゆきを座らせる周平。

みゆき　：それだけじゃないんです。折原さんの後ろにはパーカーを来た男の人がいて、お前はストーカーじゃない」って。  
志摩子　は？  
パーカー　お前はストーカーじゃない。  
百合　もしかして新手の勧誘ですか。宗教とかの。  
志摩子　そうなんですか！  
周平　違います！  
百合　私、宗教はちょっと…。  
志摩子　私は一時期入ろうかと思ってました。  
周平　ちゃんと説明した方がいいんじゃないか。  
みゆき　そうだね。  
周平　：妻は、他人の後ろに人が見えるらしいんです。  
百合　やばい。　スマホを触る）  
周平　ネットには流さないでください。  
百合　すみません思わず。  
周平　僕はまだ信じられないんですけど。  
志摩子　いつからですか。  
みゆき　ここ一ヶ月くらいですかね。今日は特にはっきり見えます。  
志摩子　全員の後ろに見えるんですか。  
みゆき　見えます。あ、道行く人のとかは見えません。意識してないからかもしれない

周平

いんですが…でも地下鉄なんかでじっとしていると、何かうっすらと。

僕の後ろには、振り袖姿の女性がいるそうです。

ふりそで

嘘ついでる。

みゆき

嘘ついでるって。

周平

またそれか。嘘ってなんだよ。

志摩子

あのマスターの後ろには見えるんですか？

みゆき

エプロンの人がいます。

志摩子

エプロン。

みゆき

でも頭になにか被ってるんです。エコバッグみたいな。

志摩子

顔が見えないってことですか。

みゆき

ええ。

志摩子

素子を見る。あの方の後ろには？

みゆき

それが…カメがいます。

志摩子

カメですか！

みゆき

はい。生き物の。

志摩子

自分の後ろは見えないんですか？

みゆき

自分の後ろには見えないんです。

みゆき以外いなくなる。

女

フ畳ちよっとの1K。机、

と言ってる傍から、机の大きさの『榨』が現れる。

以下、それ型の榨。

女

タンス、本棚、散らかったローテーブル、テレビ、ギター、ストーブ、年中出しっ放しの扇風機、窓につるされた、洗濯物干し、ドライフラワー、吊るしっ放しの風鈴、カラーボックス、布団、ぬいぐるみ、元氣のない観葉植物、スーツケース、ブランドもののカバンいくつか、葉がはみだした葉箱、通販で買った水が入った段ボール、発泡スチロールの箱、手作りの松岡修造のカレンダー、アイロンとアイロン台、紙袋いくつか…雑然とした私の部屋。その中心に転がっている、私。

みゆきが寝転がる。

女

松本みゆき。32歳。独身。

みゆき　ねえホントたるいんだよー。

返事はない。

みゆき　ねえ。

喫茶店。

百合　嘘ですよね。

みゆき　本当に見えるんです。

百合　だってそれ、守護霊ってやつでしょ。

みゆき　いや、これが守護霊なのかどうかは…

百合　守護霊って後ろにいるっていうじゃないですか。

志摩子　スタンド…

百合　え？

志摩子　いえ。

百合　守護霊がそんな簡単に見えるわけじゃないじゃないですか。

みゆき　もちろんです。私、霊感なんて全然ないですし。

百合　あ、霊感を調べるアプリがあるんだった。スマホを見る(

みゆき　もし霊だとしたら、彼らは死んでるってことですよね。

百合　死んだ人が、私を殺したって。

ワンピース　あんたが殺したんだよ。覚えてないの？

みゆき　あんたが殺したんだよ。覚えてないのって。

百合　気持ちわる。

森村が飲み物を持って来る。

後ろのエプロンの女もついてくる。

森村　えらい盛り上がりってるね。

みゆき　あ、ごめんなさい。

森村　お待たせしました。こちらスペシャルね。

周平　ありがとうございます。

志摩子　エプロンの女性は？

みゆき　ついてきます。

志摩子　森村の後ろを見る(

森村　なんかついてますか？

志摩子 ある意味ついてます。  
森村 は？  
志摩子 あ、いえ。  
森村 これみなさんに。サービスのプチケーキ。みゆきちゃん好きでしょ。  
みゆき ありがとうございます。  
森村 ごゆっくりどうぞ。  
百合 生年月日教えてください。  
みゆき え？あ、1978年7月19日です。

カランコロンカラン。  
夏樹ルイが入ってくる。  
後ろには青いシャツの男がついてきている。

周平 夏樹さんですね。  
ルイ はい。  
周平 小池周平です。お待ちしてました。  
ルイ 遅れてすみません。  
百合 やばい！私にも見える！  
周平 藤原さん違います。あれは本物です。その証拠に私にも見えます。  
志摩子 私にも。  
百合 死ぬかと思った。  
森村 その椅子、自由に使ってください。  
周平 ありがとうございます。  
森村 今日は多分お客さん来ないんで。  
志摩子 ああそうか。  
周平 どうしてですか。  
森村 隣町でお祭りがあってみんなそっちに行ってるんですよ。はいホットね。  
素子に出す)  
周平 そういえば道、結構混んでました。  
男 ええと…  
男 あ、すみません。飛び入り参加は可能ですか。  
周平 あ、はい。  
男 石田幸太郎と申します。夏樹さんから話を聞いてぜひとも参加したいと…。  
志摩子 悲惨なお話を持っというらしいや。持ってると思います。  
幸太郎 こちら夏樹さんです。  
周平

ルイ 夏樹ルイです。よろしく願います。

日記を読んでいた女が日記を閉じ、花柄のコートを着て、さささっとルイの後ろにつく。

みゆき 夏樹さんには見えます。でも石田さんには見えないんです。

志摩子 見えないんだ。

みゆき あれ。

幸太郎 はい。

みゆき 有名な方ですか。

幸太郎 え？

みゆき お顔に見覚えがあるんです。

百合 え、有名人！

幸太郎 いやいや一般人ですよ。

周平 それより立ち話もなんだから。

椅子が追加され、ルイと幸太郎も挨拶して座る。

みゆきは立ったまま、幸太郎の後ろを見ている。

周平 みゆき。

みゆき あ、ごめんなさい。

周平 改めまして、妻のみゆきです。

みゆき 初めまして。今日はありがとうございます。

森村 水を出す（何にしましょう）。

ルイ 私はアイスコーヒー。

幸太郎 僕はホットで。

森村 普通のとスペシャルがありますが。

幸太郎 普通のお願ひします。

森村 かしこまりました。

周平 この度は、自分より悲惨な人の話を聞いて元気を出す会』に参加して頂き、誠にありがとうございます。こちら、折原さんと、藤原さんです。メールで送った通り、妻は悩んでいます。夏樹さん、それから石田さんにもぜひとも悲惨なお話を聞かせて頂けたらと思います。

ルイ …あの、ちょっといいですか。  
周平 为什么呢。

ルイ いただいたメールで、だいたいのお話は把握しました。それで先に聞いてお



周平

いた方がいいかもしれないと思うことがありまして。  
はい。

ルイ

奥様の悩みは、他にもあるんじゃないですか？

周平

え？

ルイ

違ってたらごめんなさい。メールの文面からなにか他の理由もあるのではないかと  
言おう気がしたものですから。

みゆき

私から話します。

周平

みゆき。

みゆき

先に話した方がいいと思うんだ。

周平

…ま、そうかもな。

みゆき

私、人の後ろに人が見えるんです。

幸太郎

え？

ルイ

…後ろというのは、背後に。

みゆき

はい。いや、人じゃない場合もありますけど、おおむね、人です。

周平

疲れてるんだと思うんです。色々悩んでて。

みゆき

ホントに見えるんだよ。

ルイ

私の後ろにも見えるんですか。

みゆき

見えます。花柄のコートを着た女性です。

ルイ

花柄の？

みゆき

はい。

周平

すみません。なんだかこんな調子でして。

ルイ

大変興味深いです。

志摩子

守護霊じゃないかって。

百合

可能性ありますよ。だってほら、みゆきさんの靈感98パーセント。

ルイ

守護霊。なるほど。

周平

すみません。そんなはずないと思うんですけど。

ルイ

いえ、興味深いです。

周平

…よろしければ夏樹さんのお話を。

ルイ

分かりました。私は心理カウンセラーをやっています。

みゆき

心理カウンセラー。

はながら

ありがとう。

みゆき

ありがとうって。

ルイ

え？

はながら

助けてくれてありがとう。

みゆき

助けてくれてありがとうって。

ルイ

本当にそんなことを？

みゆき はい、言ってます。

ルイ …なるほど。ということは後ろにいるのは、私と関係のある人物かもしれないですね。

みゆき そう思います。

ルイ …よろしければ先に、石田さんの話を聞いて頂けますか？

周平 石田さんの。

ルイ ええ。

みゆき よろしくお願いします。

幸太郎 僕は4年前、福島で震災に遭いました。

みゆき 以外いなくなる。

はながらが コートを脱ぎ、椅子に座る。

女 私の彼。石田幸太郎。25歳。若い。

みゆきの部屋。

幸太郎が来る。

幸太郎 そごどいて。

みゆき いやだ。

幸太郎 またぐよ。

みゆき いやだ。

みゆきをまたぐとテーブルの上にオムライスを置く。

みゆき だるいー。

幸太郎 ケチャップ自分でやる？

みゆき めんどくさいー。

幸太郎 はいはい。

みゆき さむいー。

幸太郎 はいはい。

枠が本物のストープに。

以下、枠はだんだんと、本物に。 ※の所

幸太郎、ストープをつけていったん去る。

女

こうちゃんは優しい。「週間前から私が突然働かなくなったのを、なにも聞かずに許してくれている。本当になにも聞かない。それどころか、私の部屋に来てごはんを作ってくれる。感謝している。

みゆき

ねえホントだるいんだよ。

幸太郎の声

分かっているよ。

みゆき

もう死にそうなくらいだるいの。

幸太郎の声

そりゃ大変だね。

幸太郎がケチャップとペットボトルのお茶を持って現れる。

幸太郎

はい、出来たから食べよう。ハートでいい？

みゆき

みゆきって描いて。

幸太郎

みゆきね。

ケチャップでみゆきと描く。

幸太郎

…ま、いっか。ほら出来たよ。

みゆき

起きるのめんどくさい。

幸太郎

冷めちゃうよ。

みゆき

分かっているよ。

幸太郎

お茶？それとも

みゆき

ビール。

幸太郎

はいはい。

幸太郎、みゆきをまたぐといったん消える。

幸太郎の声

ホンモノ？ニセモノ？

みゆき

どっちでもいいよ。だるい。

女

だるい疲れためんどくさい、が最近の私の口癖だ。本当にだるいし疲れているしめんどくさい。なんにもしてなくても、疲れるものは疲れる。むしろなんにもしない方が疲れることもある。じゃ働けということになるが、働きたくないからなんにもしてないのだ。働きたくない、このままずっと。

幸太郎がビールを持って現れる。

幸太郎

じゃ今日はホンモノ。

みゆき ホント疲れた。

幸太郎 注ぎながら) なんで。

みゆき 分かんない。

幸太郎 今日なにしてたの。

みゆき 寝てた。 ※

幸太郎 他には。

みゆき トイレ行った。

幸太郎 他は。

みゆき ゲーム。

幸太郎 他。

みゆき テレビ。 ※

幸太郎 他。

みゆき 寝てた。

幸太郎 それで疲れたの。

みゆき 疲れたー。もうだるいー。 っていうかまだー？

幸太郎 もうちょっと。ビールは泡のキメ細かさが大事だから。

みゆき 早く食べたいー。

幸太郎 あと3秒。

みゆき 待ちくたびれたー。

幸太郎 …はい出来た。

みゆき ダメもうアウト。このまま食べる。

幸太郎 いくらなんでもそれはダメだろう。

みゆき 病人だと思えば当たり前でしょ。

幸太郎 みゆきは病人じゃないでしょ。

みゆき 病人だよ。こんなにだるいのおかしいもん。

幸太郎 ほら起きて。

幸太郎、無理やりみゆきを起こす

みゆき、テーブルに突っ伏す。

幸太郎 はい。いただきます。

みゆき 乾杯でしょ。

幸太郎 え。

みゆき 昇進したんでしょ。なんとかチーフに。

幸太郎 中古車販売部門営業チーフ。

みゆき かんぱーい。

幸太郎 かんぱーい。  
みゆき あー。なんにもしてないのに美味しい。  
幸太郎 ほとんど飲んでないじゃん。  
みゆき 疲れた。突っ伏す)  
幸太郎 はいおばあちゃんあーん。  
みゆき あーん。もぐもぐもぐ。あー美味しいねえ。疲れた。  
幸太郎 疲れたばかり言っていると、一生疲れたまんまだよ。  
みゆき 疲れないなんてことないでしょ。人生。  
幸太郎 そりゃそうだけど。言霊っていうかさ。  
みゆき こうちゃん若いのに渋いこと言うね。  
幸太郎 プリンとシュークリームあるよ。デザート。 と去る)  
みゆき どっちでもいいよー。

みゆき、寝転がる。

女 こうちゃんは優しい。年下なのにしっかりしてる。わたしは…ダメだ。オムライスを食べたら、店が閉まる前に、買い物に行こうかな。

喫茶店。

周平 福島ですか。実は…  
みゆき 袖を引っ張る)  
周平 いえ。  
はながら 救ってあげてよ。  
みゆき どういうこと？  
周平 みゆき。  
はながら あなたしかいないんだよ。  
みゆき 私しか？  
ルイ なにか言ってるんですか？  
みゆき はい。  
ワンピース ねえ、位置変わったらいんじゃないの。  
みゆき 位置ってどういうこと？  
パーカー そうだな。  
はながら そうしよう。  
みゆき なに、そういう会話ありなの！？  
ふりそで ちゃんと話した方がいいと思うよ。

前後が入れ替わり、背後にいた者たちが座る。  
エブロンと森村も入れ替わっている。  
カメが素子の前に来ている。

みゆき はあ！？

ワンピース あーラクになった。

パーカー ずっと立ってたからね。

みゆき これ…どうなってんの。

ワンピース こっちが聞きたいよ。どうして見えるの。

みゆき え？

ワンピース どうして私たちが見えるの。

みゆき あなたたちはどういう人たちなの。

ふりそで この人たちに一番、想われている人たち。

みゆき 一番、想われている？

パーカー ああ。

ワンピース 私は殺されたけどね。

みゆき それってホントなの。

ワンピース ホントだよ。銃でバーンって。

みゆき 銃！？

ワンピース そうだよ。痛かったわあ。

はながら 私は感謝してる。この人のカウンセリング受けなかったら辛かったと思う。

みゆき あなたたち…守護霊なの？

パーカー 違うよ。俺は死んでないし。

みゆき 死んでないの！？

エブロン 私も。

ふりそで 私なんか生まれてもいないし。

みゆき 生まれてないの！？

パーカー そうだよ。俺たちはこいつらの想いの強さからカタチになってるだけだ。

みゆき どういうこと。

パーカー こいつらは日ごろ生きてて、一番強く想ってるんだよ。俺たちのこと。

みゆき 強く想ってる。

パーカー そうだよ。

みゆき 志摩子さんが、あなたを。

パーカー ああ。

みゆき …もしかしてあなた、ストーカーされた元カレ？

パーカー だからこいつはストーカーじゃないんだよ。

みゆき だってあなたが警察に訴えたんでしょ。

パーカー 一時の気の迷いでね。本当は訴えたくなんかなかった。

みゆき そうなの？

パーカー そうだよ。俺は今でも彼女を愛してる。

みゆき …ああ、もしかして、折原さんのあなたに対する想いがカタチになってるから、そんな風に都合のいいように。

パーカー 警察なんか言ってるホントバカだった。100回連続送られてきた「死ね」というメールが今となっては「愛してる」に感じられる。

はながら 私も感謝してるよ。彼女に。

みゆき あなた、夏樹さんのクライアント？

はながら そうだよ。

みゆき でもどっかで会ったことない？

はながら ううん全然。

ワンピース 私は殺されたんだよ。

みゆき えーと、つまり藤原さんがあなたを殺したと思ってるんだ。

ワンピース 本当に殺されたんだよ。こいつのミスで。

みゆき …ミス。

ワンピース そうだよ。

みゆき そうか！そんな格好してるから分かんなかったけど、あなたあれだービュワーだービューティフルワールドのエルフだ！

ワンピース、髪をかき上げてとがった耳を出す。

ワンピース そうだよ！この女が毎日欠かさずやってるビューティフルワールドだよ。

みゆき 私も 一時期それやってた！

ふりそで この人嘘ついてるんだよ。

みゆき 嘘ってなに。

ふりそで 分かってるでしょ。

みゆき 分かんないよ。あなた誰。

ふりそで 子どもだよ。

みゆき 子ども？

ふりそで 成人式迎えたよ。お母さん。

みゆき ああそうかー女の子がいいんだこの人。そういうことか。

エブロン いらっしやいませ。

みゆき どうしてそんなもんかぶってんの。

エブロン、見覚えありますよね。

みゆき それはこのエブロンでしょ。私もつけてた。

エブロン エブロンに惹かれて、ここで働くことに決めたんですよ。

みゆき そう。じゃあなたこの人？

エブロン どうでしょうね。

みゆき あのカメはなんなんだろう。

カメ 鳴く)

みゆき うわあ！

パーカー カメって鳴くんた。

ワンプリース カメが大事なんだよ。こいつにとって。

カメ 鳴く)

パーカー バランスを取ってるんだよ俺たちは。

みゆき バランス。

ワンプリース 強く思うことで、こいつらは自分を保っているんだよ。

みゆき そうなんだ。じゃなんであたしにはいないんだろ。

パーカー バランスがとれてないんじゃないか。

みゆき 私も子どもを望んでるし、後ろにイケメンの息子でもいてもおかしくないと

思うんだけど。

いないね、あなたには。

そんなバツサリ。

笑う)

想える対象がいるのは幸せなことだよ。

同意のように鳴く)

そうだろうね。

はながら でも強く想い過ぎて私たちが抜け出せないっていうのも、また事実なの。

みゆき 抜け出せない。

はながら だから救って。

みゆき 救う？

はながら この人たちを救ってあげて。

前後が戻る。

周平 みゆき？

みゆき あ、ごめんなさい。

周平 どうしたんだぼーっとして。

みゆき すみません。



森村 はい。アイスとホットね。あとプチケーキ。  
ルイ ありがとうございます。  
森村 ごゆっくりどうぞ。  
幸太郎 震災で、つき合っていた人を失いました。  
周平 どのような状況で。  
幸太郎 あの日、僕が出張で離れ離れになっていたんです。  
周平 そうなんですか。  
幸太郎 ええ。それで連絡が途絶えて…でも死亡した人のリストには彼女の名前がな  
くて…でも彼女は…消えてしまったんです。  
周平 それはそれは…。  
幸太郎 今も彼女が生きてる、そう強く想っています。  
みゆき だけど見えないんですよ。  
幸太郎 見えない？  
みゆき 石田さんの彼女は見えないんです。  
周平 みゆき。その話は今はいいから。  
ワンピース はっきり言ってやりなよ。  
みゆき え、言うの？  
ルイ なにか言ってるんですか。  
パーカー あんたしか俺たちの言葉を伝えられないんだよ。  
ふりそで 守護霊じゃないって伝えてよ。  
みゆき それは分かったんだけど。  
ルイ なにを言ってるのか教えて貰えませんか。  
はながら 救ってあげて。  
みゆき だからそれどういうことよ。  
ワンピース 早く伝えろよ。めんどくせえな。  
みゆき 分かったよ。  
ルイ みゆきさん。  
みゆき あのですね、背後の人たちは守護霊じゃありません。  
ルイ 何故分かるんですか。  
みゆき 今話したんです。  
周平 そんなわけないだろう。  
みゆき ホントだよ。パーカーの人と、ワンピースの子、花柄の子、エフロンの子、  
ふりそでの子。  
周平 ふりそでの話は前にも聞いたよ。  
みゆき この人たちを救ってあげて。そう言われたんです。  
ルイ この人たちって。

みゆき

みなさんのことです。

素子が立ち上がる。

素子

あの…

みゆき

なにか…？

素子

さっきからお話が耳に入ってきてまして。

周平

大変申し訳ありません。みゆき。

みゆき

すみませんでした。

素子

私の背後にも見えるんでしょうか。

みゆき

…え？

素子

私の背後にも。

みゆき

…あ、小池みゆきと申します。

素子

神崎です。神崎素子です。

みゆき

神崎さんの背後には、カメが見えます。

幸太郎

え？

素子

カメですか。

みゆき

はい。生き物の。

周平

またそんな適当なことを。

みゆき

本当だよ。首の後ろにちょこんって。

周平

だけとお前カメって。

幸太郎

ナニガメでしょうか。

みゆき

ミドリガメです。

幸太郎

ミシシippアカミミガメか。

周平

石田さん、カメにお詳しいんですか。

幸太郎

あ、まあちょっとですけど。

素子

あの…

周平

あ、すみません。

素子

ありがとうございました。あ、それから…

みゆき

はい。

素子

いえ、お返しします。

素子が席に座る。

間。

百合

常連さんですか。

森村 いや、初めて見る顔だね。  
周平 もうちょっと静かに話そうか。  
みゆき そうだね。

カランコロンカラーン。  
エブロン女性が入ってくる。  
背後のエブロンは、いつの間にかいなくなっている。

女性 遅くなりましたー。  
森村 大丈夫、今日暇だから。  
みゆき あ！ 背後を見る）あれ。  
周平 どうした。  
森村 お店やめる時に一度会ったよね。みゆきちゃんの後に入った弥生ちゃん。  
弥生 弥生です。みゆきさんお久しぶりです。  
みゆき ああー。弥生ちゃんか。  
弥生 どうしました？  
みゆき ううん、お久しぶりです。  
ふりそで マスター、この子が好きなんだよ。  
みゆき ああー。だからか。  
森村 なにそのリアクション。  
みゆき なんでも。  
弥生 あ、マスター、これ。お祭りで買って来ました。  
森村 お、りんご飴。  
みゆき りんご飴。

数年前の春。お祭り。  
みゆきと周平が歩いている。

周平 綺麗だろ。  
みゆき 綺麗だね。  
周平 こころ辺は、桜だけは綺麗なんだよな。  
みゆき 桜だけはって失礼な。あ、屋台出てる！  
周平 なんかも食べようか。  
みゆき あ、りんご飴。  
周平 りんご飴？  
みゆき 食べたことない？

周平 りんご飴はないな。  
みゆき じゃ食べよう。  
周平 美味しいの？  
みゆき まあまあ。  
周平 なんだそりゃ。  
みゆき あれは見て楽しむものだから。  
周平 そうなんだ。すみません。二つください。

周平が去っていく。  
それを見つめるみゆき。

喫茶店。

森村 いっぱい買って来たなあ。良かったらどうですか。  
みゆき マスター。私食べたいです！  
周平 みゆき、りんご飴好きだもんな。  
みゆき うん。  
森村 はいどうぞ。  
みゆき いただきます。  
森村 みなさんもうですか。  
幸太郎 僕もいただきます。  
森村 はいどうぞ。  
百合 やばい夏樹さん有名なんですか！なんか講演会とかやってる。  
ルイ 有名ではないです。ただ震災後、東北を中心にあちこちで話をするようにしています。心のケアについて。  
百合 いや有名ですよ！ほら画像がこんなに！ 見せる（  
周平 じゃ、石田さんもそのつながりで。  
幸太郎 はい。僕は夏樹さんのカウンセリングを受けていました。  
周平 そうでしたか。  
ルイ さっきの話ですけど、みゆきさんは私たちをどう救うんでしょうか。  
みゆき さあ、どう救うんでしょう。  
パーカー 分かってるんだろう。  
みゆき 分かってる？  
パーカー 俺は志摩子といつまでも一緒にいるわけには行かないんだ。  
みゆき どういうこと？  
ワンピース こいつが私を殺したことをちゃんと認めりゃいいんだけどさ。

パーカー そうしたら、俺たちと決別できる。哀しいけど。

みゆき つまり、あなたたちが消えればいいんだ。

ルイ あなたたちというのは、背後の人のことですか。

みゆき え？あ、すみません。

はながら そうだよ。消えればいいの。

みゆき みなさんの強い想いを落ち着けることが出来れば、背後の人たちは消えるみたいですよ。

ルイ 強い思い。

パーカー まず俺からだな。

ワンピース 私からだろ。

みゆき 喧嘩しないでよ。

志摩子 喧嘩してるんですか。

みゆき パーカーとワンピースが。

パーカー 俺からお願います！

みゆき 分かったよ。志摩子さん。

志摩子 はい。

みゆき パーカーの男性は、あなたの元カレだと思っんです。

志摩子 …私の後ろに、彼が？

みゆき ええ。黄色のパーカーです。

志摩子 確かに…着てたような気がするそんな色の。

みゆき その彼が、あなたはストーカーじゃないって言ってるんです。

志摩子 ストーカーでしたよ。私は。

パーカー ストーカーじゃないって分かったんだ。ごめんな。

みゆき ストーカーじゃないって分かったんだ。ごめんなって。

志摩子 そんなこと言われても…逆に困る。

みゆき どうしてですか。そう言われたいんでしょう。

志摩子 言われたいですよ。お前はストーカーじゃない。今まで悪かった。

パーカー お前はストーカーじゃない。今まで悪かった。

志摩子 あんな女なんとも思っていない。一時の気の迷いだ。

パーカー あんな女なんとも思っていない。一時の気の迷いだ。

志摩子 志摩子の方がずーっと綺麗で

パーカー 志摩子の方がずーっと綺麗で

志摩子 気が利いて可愛くて

パーカー 気が利いて可愛くて

志摩子 んもう食べちゃいたい！結婚しよ！

パーカー んもう食べちゃいたい！結婚しよ！

志摩子 抱きしめる真似)  
パーカー 抱きしめる真似)  
志摩子 って言われたいですよそりや。  
みゆき 言ってますよ全部。  
志摩子 そんなバカな。  
百合 私の後ろの人は？  
ワンピース なんで殺したんだよ。  
みゆき なんで殺したんだよって。  
百合 だからなんのことだか。  
みゆき さっきビューティフルワールドの話してましたよね。  
百合 あれは私の生きがいですよ。  
百合 あれって主人公をエルフに出来ますよね。  
みゆき エルフ…ああ…あの子は…死にました。  
百合 後ろにいるのは、そのエルフです。  
みゆき え？  
百合 そうだよ！なんで殺したんだよ。  
百合 私のガラドミアが後ろに？  
周平 ガラドミア。  
幸太郎 名前ですよ。自分でつけられるんです。  
ワンピース なんで殺したんだよ！  
みゆき なんで殺したんだよ。  
百合 …殺したら激レアアイテムが手に入るって。  
ワンピース …え。  
みゆき …え。  
ワンピース 伝えて。  
みゆき それを？  
ワンピース んもう！飛び蹴りしちゃうのだ！  
みゆき んもう！飛び蹴りしちゃうのだ！  
幸太郎 エルフが怒った時に出る台詞だ。  
周平 みゆき、もういいから。  
みゆき つまり、みなさんの背後にいる人たちは、みなさんが一番強く想っている人  
たちなんです。  
ルイ 一番強く想っている？  
みゆき 夏樹さん、一番強く想っている人に心当たりはありませんか。  
ルイ …一人、思い当ります。  
みゆき その方、花柄のコートを着てませんでしたか。

ルイ

…。

みゆき

どうですか。

ルイ

言われてみれば。

みゆき

やっぱり。

素子が立ち上がる。

素子

あの…

周平

すみません、もっと小さな声で話しますんで。

素子

すると私はカメのことを一番強く想っているのでしょうか。

周平

…は？

素子

カメのことを。

みゆき

そうなりますね。

素子

カメのことは特になんとも思ってません。

周平

そうですね。

みゆき

想っているはずですよ。

素子

いえ、カメに思い入れはありません。

みゆき

きっと思い入れがあるはずですよ。

素子

ありません。お返しします。

素子が座る。

周平

思い入れないっておっしゃってるじゃないか。

みゆき

そんなはずないと思うんだ。

百合

確かにビューワーは、私の命ですけど。

幸太郎

僕もビューワー、好きです。

ルイ

石田さんやってたんですね。そのゲーム。

幸太郎

はい。やってました。昔。

だんだん、昔へ…。

※

みゆきは歩き出す。

女が椅子に座る。

女

買い物に出たのはいいが、買う物は決まっているし、だけど目的の物を買う前に他のものに気を取られるというのは良くあることで、私は寄り道をすることにした。こつちゃんになにか買ってあげようと思ったのだ。だるい

だるいと言っているお詫びに、3月はまだ寒い。 ※カレンダー 私はあまりにだるいので、ちょっと休むことにした。

みゆき、座る。      ローターブルで良いかと)

女

ベンチに座ると、色々なものが目の前を通り過ぎて行った。それは日常の様  
でいて、日常ではなかった。自分の中の小さな変化が、日常を日常でなくす  
るのだ。なんでもそうだ。上がっている気分の時は全てがバラ色に見えるし、  
下がっている気分の時は、すべてがくすんだ色に見える。心の変化が町を変え  
る。人を変える。物を変える。そして今の私の中の変化は、上がっているの  
でも下がっているのでもなかった。この変化は

みゆき  
この変化はそういうものとも違う。微妙な変化だった。だから日常は微妙に  
変化した。微妙な……くすぐったいような、もどかしいような、そういう変化。

若者が通っていく。

みゆき  
若者が、ヘッドホンをして、スマホを触りながら、浮かれた様子で通り過ぎ  
ていった。流行りの曲っぽいものが音漏れして、かすかに聴こえてきた。な  
にかいいことがあったのだろう。彼はまわりのことなど気にせず、完全に一  
人の世界で浮かれていた。そういう若者を羨ましいと思った。若者若者と言  
っているが、私も82歳の祖母から見れば若者で、ただ若者ではあっても、  
若くないことも知っていて、祖母はきつと早く私の結婚式を見たいだろうな  
あと思った。

ワンピースの女性が自転車で通っていく。

みゆき  
ぼんやりしていたら、紫色のワンピースの女性が自転車で目の前を横切っ  
て行った。軽やかな鼻唄を歌いながら通り過ぎていった。とても綺麗な子だっ  
た。まぶしかった。そうだ、早く買い物に行こうと当初の目的を思い出した。  
家ではこうちゃんが待っている。こうちゃんはきつと、ゲームをやっている  
だろうな。ゲームをやっているこうちゃんの斜め後ろから見ると顔が好きだ。  
仕事をしている時の顔を知らないから、

みゆき 女  
ゲームをやっているこうちゃんを見て、きつと仕事をしている時もこんな真  
剣な顔をしているのだろうと想像する。

みゆき  
このだるさは、どこから来るのだろうか。



ルイ みゆきさん。これは推測ですが。

みゆき はい。

ルイ 背後の人々を、ひいては私たちを救うことは、今のみゆきさんにとって必要なことなのかもしれません。

みゆき 私にとってですか。

ルイ ええ。確かに背後の人々は、私たちそれぞれの強い思いがカタチになったものなのかもしれません。しかしそれがみゆきさんだけに見えるのには、意味があると思うんです。みゆきさんにとって、救うこと」が一つの浄化作用になっているとか。

周平 つまり、その背後の人たちをなんとかしたら、みゆきも良くなるよ。

ルイ 私は今まで、様々なケースの方をカウンセリングしてきました。その中には、夜、寝ようとすると幻覚のようなものが見えて眠れないという方もいましたし、私が一番気にかけていた、おそらく今、私の背後にいるであろうクライアントは、離人症の傾向がありました。

みゆき 離人症。

ルイ 離人感、つまり自分がまるで人生の傍観者であるような感覚を持つというのは誰にでも少しはあるものですが、離人症となると周囲の呼びかけがまったく聴こえないレベルにまで達したことになります。私のクライアントはそれがさらに進み、解離性障害にまで

百合 あ、ビリーミリガン。

ルイ ええ。至ってしまったので、病院通いでは足りずに私の手を離れ、専門の病院で集中的に治療をすることになりました。

はながら 感謝してるよ。

みゆき 感謝してるよって言ってます。

ルイ 本当にそんなことを。

みゆき ええ。

ルイ …そうですか。

周平 みゆきはそういった病気と関係あるのでしょうか。

ルイ 分かりません。ただ様々なケースがありますので、みゆきさんだけに見えるということは無視してはいけないような気がするんです。みゆきさんが救世主かなにかで、世界中の人々を救うためにそのような能力を持ったと理解するわけには行かないと思うのです。

百合 厨二病だわな。それじゃ。

ふりそで 難しいこと言ってるね。

ワンピース  
つべこべ言っていないで早いとこなんとかしろよ。  
みゆき  
ちよっと黙ってよ。

素子が立ち上がる。

素子  
あの…  
周平  
本当にすみません。  
素子  
お話聞いてて思ったんですけど。  
周平  
もうこっちにまざりますか。  
素子  
もしかして小池みゆきさんは、私のことも救ってくれるんでしょうか。  
ルイ  
神崎さんの背後にも見えるのですから、十分にあり得ますね。  
素子  
私ちよっとだけ、カメの件、思い当たったんです。  
みゆき  
なんですか。

立ち上がる志摩子。

志摩子  
ちよっとお手洗いに。

志摩子とパーカーが去る。

素子  
私、今日、お祭りから逃げてきたんです。  
みゆき  
逃げたきた？  
素子  
はい。私、花火が怖いんです。  
みゆき  
花火が、ですか。  
素子  
はじめは怖くなかったんです。むしろ好きでした。  
みゆき  
はじめは。  
素子  
でも小学2年生の時に空襲の話をおばあちゃんから聞いてから、花火の音が  
凄く怖くなったんです。  
みゆき  
ああ、分かります。  
素子  
花火だけじゃなくて、飛行機やヘリが家の近くを通ると、戦闘機なんじやな  
いか、爆撃されるんじゃないか、いつもそんなこと思ってました。  
みゆき  
分かりますよ。  
素子  
分かりますか。  
みゆき  
私も修学旅行で広島原爆資料館見てからしばらくは、そんなこと考えてま  
した。  
百合  
それ分かるー。

素子 だから私の後ろのカメは、お祭りのカメなのかもしれません。

みゆき お祭りのカメ。

周平 ミシシッピアカミミならお祭りで売ってますからね。

素子 つまり私にカメが見えるのは、小池みゆきさんが、私をお祭りから救ってく

れるからなのでしょうか。

みゆき お祭りから…。

りんご飴を見るみゆき。

ルイ どうしました？

みゆき いえ。

昔へ。

女が椅子に座る。

女 とうとう目当ての場所に来たので、私は、迷うことなく買いたい物を手に取

った。近くで緑色のチェックのエプロンをつけて、エコバッグを持った女性  
が、頭痛薬のコーナーを念入りに見ていた。

エプロンの女性が後ろ向きに立つ。

女 もしかして生理痛かな、と思った。どれにしようか迷っている様子で、凄く  
念入りに選んでいた。私も生理痛がひどい方だったし、今日の私はくすぐっ  
たいような気持ちを抱えていた。彼女に話しかけて、これがおすすめだよと  
教えた。彼女は素敵な笑顔を私に返してくれた。それなのに照れくさくてま  
ともに顔を見ることが出来なかった。彼女が店からいなくなるのをしばらく  
待った。それから、ちょっと恥ずかしかったが、堂々と選び、レジに持って  
いった。

喫茶店。

周平 …じゃ、俺の後ろの振り袖ってなんなんだよ。

みゆき 女の子望んでるんですよ。

周平 …え？

みゆき 女の子が欲しいんですよ。

周平 俺はそこまで高望みは…

ふりそで

嘘ついでる。

みゆき

生まれてくるであろう、その子だよ。

周平

じゃお前、女の子を授かるのか。

みゆき

違うよ、これはあなたの願望だからなんとも。

百合

振り袖着せたいと思ってたりするんだ。

周平

まあ、そんな姿見てみたいとは思いますがよね。

志摩子がちょっとおめかしして戻ってくる。

パーカーもついでくる。

志摩子

あの、すみません。

周平

どうしました。

百合

なんか雰囲気変わった。

志摩子

実はみなさんに隠していたことがあります。

周平

なんですか。

志摩子

ここ、彼の行きつけの喫茶店なんです。

みゆき

え？

志摩子

ここに彼が来てるのを、よくその窓の外の茂みから見えました。

周平

だからここを指定したんですか。

志摩子

ええ。みゆきさんがここで働いてたというのを聞いて、私、今日が運命の日だと感じました。

周平

運命の日。

志摩子

で、いつもだと彼、もうすぐ来るんです。

みゆき

それはつまり、

パーカー

俺が現れるってことだな。

みゆき

そうだね。

志摩子

なんて言ってるんですか。

志摩子

俺が現れるってことだねって。

志摩子

ええ、もう来ます。

周平

彼に近づいちゃいけないんじゃない。

志摩子

勝手に記念日決めたい時ってありますよね。

ルイ

記念日。

志摩子

私、今日が彼とのケリをつける記念日だって、はっきり決めたんです。すみ

周平

ません、勝手に。

パーカー

いや、いいんですけど。

パーカー

そんなに俺に会いたかったなんて嬉しいよ志摩子。もう一度よりを戻そう。

みゆき という期待もあるわけですね。

志摩子 は？

みゆき あ、いえ。

周平 けど近づいちゃいけないですよね。

志摩子 大丈夫です、必要以上に近づきません。それに私、今日できっぱり忘れます。

みゆき 志摩子さん。

志摩子 私の後ろに彼がいると言うのなら、今日ちゃんと成仏して貰います。

パーカー 偉いよ志摩子。

志摩子 あ、来ました。

カラコンカラーン。

しましまの服を着た島田司が入ってくる。

森村 いらっしやい。

島田 …。

志摩子を見て、出て行くこうとする島田。

志摩子 待って。

島田 警察に電話する。

志摩子 ごめんなさい。

島田 もう近くには来ないって。

志摩子 ごめんなさい。

島田 …。

志摩子 来るの分かったた。

島田 …じゃなきゃいないだろう。

みゆき はい！ちょっと待ってください。

島田 誰ですかあなた。

みゆき 小池みゆきです。あなた…折原さんと。

島田 …この方とはもう関係がありません。

百合 ストーカーされてたひと？

島田 そうです。

百合 やばい。スマホを触る)

周平 藤原さん。

百合 はい。

みゆき おかしいな。

パーカー おかしいね。

みゆき そうだよね。

周平 なにおかしいんだ。

みゆき だいぶ違うんですよ。イメージが。

周平 そうなのか。

パーカー こいつストーカーされなさそうじゃね。

ワンピース 思う思う。

ふりそで むしろストーカーじゃね。

はながら 言い過ぎだよそれは。

みゆき ころころ。

島田 もう帰っていいでしょうか。

志摩子 待って。

島田 話すことなにもないだろう。

パーカー 俺ならそんなこと言わないな。

志摩子 話すことはないかもしれない。けど、伝えることはある。

島田 伝えること。

志摩子 …私、死にます。

島田 またそういう話かよ。

志摩子 ちょっと待ってそういうことじゃないの。

島田 …。

志摩子 私、死んで生まれ変わります。

島田 は？

志摩子 あなたを忘れるということは、死ぬことです。だから私、死ぬんです。

島田 …。

志摩子 それで今から生まれ変わります。

島田 俺にはもう関係ないから。

島田が去る。

志摩子 …ありがとうございます。

みゆき すっきりしましたか。

志摩子 すっきりしました。

と、島田（むましま）が志摩子の背後に来る。

しましま

関係ないなんて言って悪かったな。

志摩子 すっきりしました。

みゆき すっきりしてなによりです。

パーカー お前ジャマ。

しましま ってかお前誰だよ。

パーカー 俺は誰だよ。

しましま 知らねえよ。

志摩子 もう消えましたか。

みゆき え？

志摩子 後ろの彼です。

しましま 志摩子！

パーカー 志摩子！

みゆき …消え…ました。

しましま 消えないよ。ずっとここにいる。

ルイ なるほどこういことですか。

みゆき え？

ルイ こうして救うんですね。みんなを。

昔へ。

女が椅子に座る。

女 レジの人は男性だった。感じのいいパーカーを着た男性だ。

パーカーがレジに立つ。

パーカー いらっしやいませ。

女 パーカーの店員は、私の買い物を見て、さもなんでもないようなふりをしていた。こいつは妊娠しているのかもしれないだー、と思っている顔なんかするはずがない。そういう顔がどんな顔かも分からない。

パーカー 729円になりますね。

女 紙袋に包まれ、それからビニール袋に包まれたそれは、なんだかとても嚴重なもののようにみえたが、ただの妊娠検査薬に違いない。そして、私はこれからそれを試し、妊娠していたら彼に報告し、結婚し、暮らしていくのだ。このだるさは…そこから来ているだるさなのだ。私はそう思っていた。お金を払い、物を受け取り、去ろうとした時、後ろから店員の声が聞こえた。

パーカー ありがとうございます。お氣をつけて。

女 お氣をつけて。あれ、この店、いつもそんなこと言ってたっけ。今日は特

別に耳に残ったのだろうか。それとも、本当に気にかけてくれたからそのように言ったのだろうか。こんなことを気にする今日。3月10日。

みゆき、座って、妊娠検査薬の箱を取り出す。

女 今日、検査をするかどうか迷っていた。まだ検査出来る時よりは早かった。生理予定日から一週間経たないと、明日はその、ちょうど一週間後だ。

箱から検査薬を取り出す。

女 ふいに、声をかけられた。  
声 すみません。

女 慌てて検査薬をしまった。さっき見たエフロンの柄がうつむいた視線の中に入ってきた。が、今を見られたのかと思うと恥ずかしくてやはり顔が見られなかった。

エフロン さっきはありがとうございました。

みゆき あ、いえいえ。

エフロン これ、いっばいもらったんで、良かったら。

エゴバッグからりんごを差し出すエフロン。

女 赤くて赤くて、綺麗なりんごだった。あの時の、りんご飴を思い出した。

みゆき …ありがとうございます。

エフロン すみません。今たまたま見かけたものですから、良かったらと思って。本当にありがとうございます！

女 顔を上げて、一瞬だけ彼女の顔を見た。彼女はまた、素敵な笑顔だったような気がした。でもそれは一瞬だけで、

エフロンが去る。

女 ちゃんと見られたのは、エフロンと、エゴバッグを揺らして走り去る後ろ姿だった。澆刺とした後ろ姿。

歩き出す。 ※

みゆき、部屋に着く。



みゆき ただいま。

幸太郎 おかえり。なに買って来たの。

みゆき ……たるいから、風邪薬。(※)

幸太郎 風邪薬ならあったのに。

みゆき いや、たるさに効くやつがいいなあって。

幸太郎 そうか。

みゆき これあげる。(ゆんごを渡す)

幸太郎 どうしたのこれ。

みゆき 貰ったの。

幸太郎 りんご飴でも作ろうかな。

みゆき え？

幸太郎 いや、ぱっと思いついたからさ。

みゆき ……そっか。

幸太郎 プリン食べる？

みゆき 幸太郎 シュークリーム。

幸太郎 はいはい。カフェオレ淹れようか。

みゆき 砂糖

みゆき 幸太郎 たっぷり

幸太郎 ね。はいはい。

幸太郎が去る。

こそっと日記を出すみゆき。

みゆき 明日は3月11日。

みゆき 早く明日になれば、と思う。明日になれば、全てが分かるのだ。明日になれば、

ひとつ前に進める。このたるさの理由も分かる。できれば居て欲しい。陰性

だったら、と思うと、このたるさにずっと飲み込まれていたいと思う。明日

になって欲しい。でも明日になって欲しくない。

みゆき 人間はわがままで。

新幹線のアナウンス。

まもなく名古屋です…東海道線、中央線…」

日記を閉じる女。

立ち上がり、スーツケースを持って来る。

電話をかける。

喫茶店。

周平 あ。  
みゆき なに。  
周平 いや。

女、電話をかけ続ける。

志摩子 みゆきさん、ありがとうございました。  
みゆき いや、そんな。  
志摩子 あなたのおかげで吹っ切れました。  
しましま 俺はお前を永遠に愛するよ。  
パーカー 待って待ってそれは俺の台詞だ。  
みゆき …吹っ切れてなによりです。  
志摩子 いい記念日になりました。  
しましま 愛を再確認記念日だな。  
ワンピース 次は私だね。  
みゆき 次は私だねってガラドミアさんが。  
百合 ガラちゃんが？  
志摩子 藤原さん、本当にそのエルフを殺したことを後悔してるんですか。  
百合 折原さんには分からないと思いますよ。  
志摩子 正直分かりませんね。  
ワンピース 生き返らせろ。  
みゆき 生き返らせろって。  
百合 生き返らせるのは無理だよ。ビューワーはさ、前のセーブポイント戻れるわけじゃないんだもん。  
幸太郎 いやひとつ方法がありますよね。  
百合 それってあれですかね。  
幸太郎 あれです。  
森村 これで見ますか？ フォトパソコンを見せる（  
百合 マスターもやってるんですか。  
弥生 マスター可愛い女の子出るゲーム大好きですもんね。  
森村 うるさい！  
百合 お願ひします！  
周平 俺そういうの全然分かんないんだけど。  
幸太郎 そんなに難しいゲームじゃないんです。ドラクエとかやったことあれば。

周平

僕がやってた頃は、画面に映ったパスワードを全部メモして、それをちゃんと入力しないとセーブした所から始められないくらい前の世代ですよ。

幸太郎

ああ、メモしたのが間違ってるセーブから始められないみたいなのあるある。それドラクエもあるある。あと犯人はヤス。

周平

ポートピアですね。

百合

やっぱりあれしかないか…。

みゆき

あれってなんですか。

幸太郎

みゆきさん、知りませんか？

みゆき

はい。

ルイ

出来れば分かるように説明していただけますか。

幸太郎

分かりました。まず最初に、ビューティフルワールドは、自分の理想とする『美しい世界』を築いていくゲームなんです。それは、平和な世界かもしれないし、綺麗な花の咲き乱れる世界かもしれない。みんながお金持ちの世界もあれば、すべてのバランスがとれた世界の場合もあるでしょう。とにかく自分の思い描く美しい世界を完成させることが出来れば、クリアできるんです。

志摩子

面白そうですね。

幸太郎

で、まず物語の準備をします。自分の動かすキャラクターとして、エルフかドワーフか人間を選ぶんです。画面を見て貰えば一目瞭然なんで、みんなで見ましようか。

露出の高い格好をしたエルフ　ワンピースが演じる」と、

小人のようなドワーフ　エフロンが演じる）、

普通の人間　むましまが演じる）が現れる。

エルフ

私はエルフ、私を選ぶと魔法とか使えるよ。

ドワーフ

僕はドワーフ、小さいけれど力持ち。

人間

ちわ。人間っす。普通っす。

幸太郎

で、まあ選んだ後に、髪型とか格好とか性格とかをキャラメイクして、自分だけのオリジナルキャラにしてくださいんですけど、その過程で藤原さんは、エルフが人間に化けたバージョンのワンピース姿を選んで、名前をガラドミアにしたんですね。

百合

それが私、ワンピースを選んだ記憶がないんですよ。このままの格好でカラーだけ変えたんですよ。

みゆき

そうなんですか。

幸太郎

とにかくエルフを選んだ藤原さんは、結構先まで進んで、自分なりの美しい

世界をつくっていったんですね。

百合  
はい。

幸太郎  
で、ゲームも終盤に進んだ頃、ある大きな選択肢が訪れるんですよ。

エルフ  
私は今まで美しい世界をつくるために、頑張ってきた。だけどさ、自分って信じすぎると痛い目見るよね。これって本当に美しい世界なのかな。いったん見つめ直した方が良くない？

幸太郎  
エルフは必ずこのように自問自答するような流れになってるんです。そこに、新たなエルフが現れるんです。

別のエルフが現れる。

別のエルフ  
こんにちは。私は、新しいエルフ。私に乗り換えると、ビューティフルソードが手に入るわよ。

志摩子  
ビューティフルソード？

幸太郎  
美しさの数値をあげるのにもっとも効果的だと言われるアイテムです。

エルフ  
待ちなよ。あんたに乗り換えるってことは。私を殺すってことだよ。

別のエルフ  
そうよ。そこに金色の銃が転がってるでしょう。転がっている(あれであなたを撃ち殺せば、私がこの物語の主人公ってことになるの)。

エルフ  
誰が殺すって言うんだよ。

別のエルフ  
この世界の、神様よ。

エルフ  
私は今まで神様に可愛がられてきたんだよ。この世界をつくるために、必死になって努力してきたんだ。今更あんたに乗り換えるわけないだろ。

別のエルフ  
乗り換えたらより世界をつくりやすくなるのよ。あなたを捨てても、理想を求めるわね。神様は。

志摩子  
今までのエルフを殺すか、多少時間はかかっても今までのエルフとともに最後まで世界をつくるか、ということですか。

みゆき  
私もエルフだった。

周平  
みゆきにもこの選択肢があったんだろう。

みゆき  
うん、私もエルフ使ってたから。

周平  
どうしたんだ。

女  
そういえば、ずっと迷っている選択肢があったのを思い出したので、こうちやんが買ってきてくれたシュークリームを食べながら、明日が来る前にそれを片付けてしまおうと思った。

(※)

みゆきの部屋。

シュークリームを食べつつ、パソコンに向かうみゆき。  
プリンを食べている幸太郎。

幸太郎 決めないと先に進まないよ。

みゆき やり直せないもんね。

幸太郎 やり直せない。

みゆき こうちゃんならどっち選ぶ？

幸太郎 俺は殺すかもしれない。

みゆき マジで。

幸太郎 だってビューティフルソードが手に入るんだよ。

みゆき でも思い入れあるでしょ。

幸太郎 そりゃあるよ。だけど俺さ、自分の力を試したいんだよね。

みゆき 自分の力？

幸太郎 今日ようやくチーフになれたんだ。こっからどこまで出来るかなあと思っ

て。明日もさ、大事な打ち合わせ頼まれて、ちょっと福島市まで行ってくる

んだ。 ※スーツケース

みゆき そうなんだね。

幸太郎 今年はこのまま頑張ってるやりに通したいんだ。だから出来るなら突き進む方を  
取りたい、そんな気分なんだよな。

みゆき そうかそうか。

女 ふと、この世にひとりぼっちになったような気持ちになった。美しいような  
気がしていたこの世界は、もしかしたら見た目のうわっつらでうわっつら  
で、私が思っているのよりずっと、汚くてみすぼらしい灰かぶりの世界のよ  
うな気がした。彼が住む世界とは違う。彼は若くて将来があってキラキラし  
ている。ここに来たのだからいづれ名古屋の本社に帰るためだ。私ははじめ  
からここにいてここで終わる。頭がいいわけでもない。仕事だって専門職じ  
やない。ふと、そんな気持ちになった。

みゆき やっぱり殺さない。

幸太郎 え？

みゆき エルフ。私のみゆっきー。このまま一緒に頑張る。

幸太郎 そうか。それもいいんじゃない。

幸太郎、去る。

女 画面の中のみゆっきーは微笑んでいた。綺麗だった、泣いているような笑って  
いるようなその笑顔は、さっきの自転車に乗ったワンピースの子に、ちよっ

と似ていた。この子みたいになりたいな。ほんの少しだけ、そう思った。

喫茶店。

みゆき …殺さなかったです。

幸太郎 思い出したんですか。

みゆき …凄く昔のことなので、はっきりとは覚えてないんですけど、確かさんざん迷って殺さなかったのは憶えてるんです。

百合 どうして殺さなかったんですか。

みゆき 同志だと思ったんでしょうか。

百合 同志。

幸太郎 エルフを生き返らせるためには、つくってきた世界の半分を消滅させなければいけません。

百合 私、消滅させます。

みゆき いいんですか。

百合 はい。自分がガラちゃんのことそんなに大事に想ってたこと、初めて分かったんです。

みゆき でも今までつくってきた世界も大事ですよね。

百合 それは…そうです。

みゆき どんな世界なんですか。

百合 家が全部お城なんです。私、フランスとかドイツの古いお城が好きで。

みゆき 壊していいんですか。

百合 … そうだね」って言って欲しかったんです。

みゆき そうだね。

百合 ネットで酷いこと書かれてるの見た時、「番仲のいい子に言ったんです。そしたら そんなのたいしたことじゃないよ」って。

みゆき たいしたことじゃない。

百合 でも私にとってはたいしたことだったんですよ。私にとっては。

みゆき …はい。

百合 私にとっては悲惨なことだったんですよ。

志摩子 藤原さん。

百合 ガラドミアは、鋤柄麻美なんです。

周平 すきがらあさみさん。

百合 彼女の名前です。ガラちゃんって呼んでました。

ルイ 藤原さんは、彼女と一緒に戦ったんですね。

百合 …はい。

ワンピース　もういいよ。  
みゆき　え？  
ワンピース　もういいよ。  
みゆき　もういいよって。  
百合　ガラちゃんが？  
みゆき　はい。  
ワンピース　今の世界を大事にしな。  
百合　今の世界を大事にしな。  
ワンピース　うん。ありがとう。  
みゆき　しっかりやれよ。  
百合　しっかりやれよ。  
みゆき　うん。

間。

百合　：ガラちゃんは。  
みゆき　：いなくなりました。  
ワンピース　いなくなってます。  
百合　ありがとう。  
ワンピース　いなくなってます。  
みゆき　ガラちゃんも報われたでしょう。  
ワンピース　報われてません。  
百合　そうだといいな。  
みゆき　きつとそうです。  
ワンピース　お前いい加減にしろよ。  
志摩子　藤原さん。  
百合　すみません、たいした悲惨じゃなくて。  
志摩子　いえ、悲惨です。立派な悲惨です。  
森村　立派な悲惨って凄いな。  
百合　私、今から5分、スマホをこのクッションの下に隠します。

スマホをクッションの下に隠す。

百合　あー辛い。  
志摩子　偉い！拍手！  
ルイ　どうですか。みゆきさんは。

みゆき 私と関係があるんでしょうか。

ルイ そう思います。

みゆき どう関係があるんでしょうか。

百合 もういいかな。

志摩子 まだ20秒だよ。

ふりそで 次、私ね！

みゆき 次、私ねってふりそでが。

周平 俺はいいよ。そんなの信じてないし。

パーカー 俺たちはこのままどうすんの。

しましま そうだよ、志摩子の後ろに二人もいらないだろ。

みゆき ちょっと待ってて。

志摩子 今、私の背後に言いました？

みゆき 違いますよ。志摩子さんは解決しましたから。

志摩子 ですよ。

ふりそで この人が嘘つくのをやめて欲しいの。

みゆき あなたが嘘つくのをやめて欲しいの。

周平 どういうことだよ。

みゆき 待てよ。この子がやめて欲しいってことは…あなた自身が嘘つくのをやめたいってことか。

周平 なんて。

みゆき 背後の人はあなたの想いだから。

周平 俺は嘘なんかついてない。

ふりそで 嘘つき。っていうかあんたも分かってるでしょ。

みゆき 分かってる？

ふりそで こいつはあんたのこと好きじゃないんだよ。

みゆき は？

ふりそで 好きじゃないのに結婚したんだよ。役所で手続きの時に出会って被災者だっ

て知って、同情で結婚したんだよ。

みゆき …なんでそんなこと言うの。

周平 おい、なんて言ってるんだよ。

みゆき いや、いいよ。

周平 なんか嫌なこと聞いたんだろ。おいなんて言ったんだお前。

周平、背後を追いかけるが、ぐるぐる回る。

ルイ 小池さん落ちて着いてください。



みゆき たいしたことじゃないよ。

パーカー 落ち着けよ旦那！

しましま 聴こえないよ。

ふりそで なんて好きでもないのに結婚したんだよ。偽善者が。

しましま お前口悪いな。

ふりそで こいつポランティアのつもりなんだよ！

周平 なんて言ってるんだよ。

みゆき いいの。

ふりそで 私がこう言ってるってことは、この男がそう思ってるってことなんだよ。

みゆき 取り乱してごめんなさい。

ふりそで 子どものこと迷ってるのはこの男なんだよ。

周平 大丈夫か。

ふりそで この男はいずれ、成人式でふりそでを着るような女の子が欲しいんだろうよ。

よ。だけどそれがあんたとの子どもかは分かったもんじゃないよ。もはやあんたのことは諦めてるのかも。

大丈夫。

みゆき みゆきさんの後ろに誰もいないのは、何故なんでしょうか。

ルイ 私の後ろにですか。

みゆき 分かってるじゃん。

ふりそで なんて。

みゆき あんたがなにも望んでないからだよ。

ふりそで 私が？

みゆき あんたはなにも想ってない。なにも望んでない。なにも期待していない。

ふりそで そうなの。

みゆき 子どものこともポーズだけ。あんたは止まったままなんだよ。あの日から。

ふりそで あの日って。

みゆき

遠くで打ち上げ花火の音がする。

素子が耳を塞ぐ。

風鈴の音が鳴る。

みゆき

あ。

森村 風が出て来たな。

弥生 そうですね。

森村 こっち向きの風だな。

周平 どうして。

森村  
音がいつもより大きいからさ。  
みゆき  
音…。

音楽を聞きながら若者が目の前を通り過ぎていく。

みゆき  
あ！  
周平  
どうした。  
みゆき  
いえ。  
ルイ  
みゆきさん、私が一番気にかけていたクライアントは、男性です。  
みゆき  
え？  
はながら  
ありがとう。  
ルイ  
女性じゃありません。男性なんです。花柄のコートは着いていませんでした。  
みゆき  
いえ、そうなんです。  
みゆき  
だってありがとうって。  
はながら  
ありがとう。  
ルイ  
みゆきさん、私の後ろにいるのは誰ですか。

音楽を聞きながら若者が目の前を通り過ぎていく。

みゆき  
…。  
ルイ  
誰なんでしょうか。

カランコロンカラン。  
はながらとそっくりの女が入ってくる。

女  
やっと着いた。  
周平  
おお、分かったか。  
女  
分かった。  
みゆき  
…あれ。  
女  
お姉ちゃん久しぶり。  
みゆき  
え。あなたは…  
ルイ  
…どうしました。  
みゆき  
…さゆり。だよね。  
さゆり  
なに。その確認みたいな呼び方。  
みゆき  
え。じゃ、今そこにいたのは…さゆり？

ルイ 私の後ろにですか。  
周平 紹介します。みゆきの妹、僕の義理の妹の、さゆりです。  
さゆり はじめまして。  
周平 俺が呼んだんだ。  
みゆき どうして。  
さゆり 持ってきたんだよ。これ。

日記を見せる。

さゆり 一時帰宅可能のうちに、と思って。  
みゆき それ…日記？  
さゆり そう、おねえちゃんの日記。  
みゆき 私の。

音楽を聞きながら若者が目の前を通り過ぎていく。

周平 持ってきて貰ったんだ。  
みゆき どうして。  
ルイ みゆきさん、福島に住んでいらっしやっただけですね。  
みゆき …はい。  
ルイ どちらに。  
みゆき 大熊町です。  
志摩子 大熊町って、原発の…。  
みゆき その近くです。  
周平 そうなんですか。  
志摩子 俺はみゆきがどんな目に遭ったのか知らない。  
みゆき …。  
周平 言わないのは、言いたくないからだと思ってた。  
みゆき …。  
周平 だけど違った。みゆきは忘れてたんだ。  
みゆき …忘れてた？  
周平 震災前の大事な記憶を忘れてたんだ。さゆりちゃんから話を聞いて分かった。  
みゆき 私がなにを忘れてるって言うの？  
周平 さゆりちゃんは知ってる。  
さゆり ごめん。読ませて貰ったから。

みゆき 今困ってないんだからいいじゃない。

周平 良くないんだ。

みゆき え？

周平 どうして俺にこの服を着て欲しいんだ。

みゆき 似合ってるから。

周平 似合ってるないよ。俺37だよ。これ20代の着るようなブランドだろ。

みゆき ……

周平 この日記を読めば、分かる。

みゆき ……

ふりそで 思い出しちゃうよ。

みゆき なにを。

さゆり お姉ちゃん、なんか見えない人が見えるって言ってたよね。

みゆき そうだよ。

さゆり 振り袖の子が見えるんですけどっけ。

周平 ああ。そう言ってる。

さゆり 書いてあった。

みゆき え？

さゆり 振り袖の子のこと。

みゆき なに言ってるの。

さゆり ほら、このページ。3月10日の。

日記を開いて、渡すさゆり。

みゆき ……

受け取るみゆき。

そうして、『帯るしつ放しの風鈴』を最後に、あの日の全ての物が部

屋に揃う。 ※

3月10日の深夜。

机に向かい日記を書いている、みゆき。

みゆき なんだか、眠れない。

携帯を見るみゆき。

みゆき

携帯を見たら、妹からの不在着信とメール。花柄のコート買ったんだ。冬物最終処分バーゲン。まだ寒いしね。うすいはやっぱりいいの売ってるよね。ねえちゃんにもマフラー買ったから、近いうちにそっち行くね。「花柄のコートを着たさゆりの画像と小さい誠くんを抱いた旦那さんの写真。私は、部屋を抜け出し、歩くことに決めた。

上着をはおるみゆき。

歩き出す。足を止める。

振り袖の子がベンチに座っている。

みゆき

3月には不釣り合いな、派手な振り袖を着たの女の子が、公園のベンチに座っている。

みゆきと目が合う。

ふりそで

こんばんは。

みゆき

…こんばんは。

ふりそで

気持ちのいい夜ですね。

みゆき

…はい。

ふりそで

…。

みゆき

なんかの…式ですか？

ふりそで

あ、これですか。

みゆき

はい。

ふりそで

…まあ。はい。

みゆき

…成人式。

ふりそで

その時期じゃないです。

みゆき

卒業式。

ふりそで

袴ですよね。

みゆき

…ですよね。

ふりそで

…座りますか？

みゆき

いいですか。

ふりそで

どうぞ。

みゆき、隣に座る。

ふりそで  
みゆき  
：着られねがったんです。これ。  
どうして。

ふりそで  
みゆき  
成人式の日、インフルエンザになっちゃって。  
ああ。

ふりそで  
みゆき  
で、お母さんが売るって言うもんだから。  
売らねくてもいいのに。

ふりそで  
みゆき  
私もそう言ったんです。だけどうち、まあまあ大変みたいで。  
そうなんですか。

ふりそで  
みゆき  
だから内緒で…友だちに着付けして貰って。  
そうですか。

ふりそで  
みゆき  
汚したら売り物になんねから、気を付けねえと。  
…。

ふりそで  
みゆき  
：あなたは？  
え？

ふりそで  
みゆき  
なんか同じような顔してっと思って。  
私ですか。

ふりそで  
みゆき  
はい。  
私は、だるいんです。

ふりそで  
みゆき  
だるいんですか。  
ええ。でもだるいのがなんだか、嬉しいんです。

ふりそで  
みゆき  
嬉しいんですか。  
ええ。でも怖いんです。

ふりそで  
みゆき  
いいですね。  
…そう？  
嬉しいけど怖いのって、一番幸せな気がします。

ふりそで  
みゆき  
…そうかな。  
だって、怖いけど嬉しいってことですよ。

ふりそで  
みゆき  
…。  
私も成人式の前の日までは、そんな感じでした。

ふりそで  
みゆき  
そう。  
そういう日って、手放して嬉しい日より大事な気がするんです。

ふりそで  
みゆき  
…そっか。  
はい。ありがとうございます。

みゆき  
私、なんもしてねけど。

ふりそで  
みゆき  
いえ、おかげさまで、いい成人式でした。

ふりそで、去る。  
喫茶店。

みゆき ……  
周平 どうしたんだ。  
みゆき ……そうか。あの日。  
ふりそで あ、思い出した？

前後が入れ替わる。

みゆき うん。  
ワンピース 思い出した？  
みゆき うん、あなた、あの日の自転車の子だ。  
ワンピース 鼻唄を歌って、自転車に乗る真似)  
みゆき それから私のエルフ、みゆっきーでもあるんだ。  
ワンピース そう、私はガラちゃんじゃない。あんたのみゆっきーだよ。  
パークー お気をつけて。  
みゆき 薬局の店員さん。感じのいい。  
エフロン 私は。  
みゆき あの日、一生懸命、頭痛薬を選んでた子。でもあの子の顔、覚えてないんだ。  
だから今は、同じ柄のエフロンした弥生ちゃん。私、あの日ね、あのエフロ  
ン素敵だと思った。違う。エフロンつけて頭痛薬選んでるあの子が素敵だと思  
った。だからこの前通った時に、同じエフロン見つけて働こうと思った  
んだ。

若者が通り過ぎていこうとする。

みゆき ちょっとあなた。  
若者 は？なんすか。  
みゆき いえ。

通り過ぎていく。

ワンピース カメは。  
カメ 鳴く)  
みゆき お祭りで飼ったカメ。そこに飼ってたんだけど、逃げちゃった。

カメ

そうカメ。

エブロン

はい、りんご。

みゆき

え？

エブロン

思い出したんだよね。私がこれあげたから。5年前のお祭り。

みゆき

お祭り？

5年前の春。

桜祭り。

みゆきと幸太郎が歩いている。

みゆき

綺麗でしょ。

幸太郎

綺麗だね。

みゆき

富岡ってホントなんにもないんだけど、桜だけは綺麗なんだよね。

幸太郎

桜だけはって。

みゆき

屋台いっぱいいたー。

幸太郎

なんか食べようか。

みゆき

りんご飴。

幸太郎

りんご飴？美味しいの？

みゆき

まあまあ。

幸太郎

なんだそりゃ。

みゆき

あれは見て楽しむものだから。

りんご飴を買う二人。

並んで座る。

幸太郎

いただきます。

みゆき

いただきます。

食べる。

みゆき

どう？

幸太郎

美味しいよ。

みゆき

うん、これは美味しい。

幸太郎

そりゃ良かった。

歩き続ける二人。



みゆき 来年か再来年、名古屋に戻るんだよね。

幸太郎 多分。

みゆき そうか。

幸太郎 みゆきはどうしたい？

みゆき 私はどうしようね。

幸太郎 ついてくる？

みゆき 親のこともあるしなあ。

幸太郎 妹さんが面倒見てるんだろう？

みゆき 妹ばっかりに押し付けても悪いから。

幸太郎 そんなこと言って、家出たくせに。

みゆき こうちゃんとのこと色々言われるの嫌だったから。それに夜ノ森の桜の近くに住みたかった。言ったでしょ。憧れだったって。

幸太郎 うん。

みゆき いい部屋でしょ。うち。狭いけど。

幸太郎 俺の会社の寮よりは綺麗だな。

みゆき たまに来てよね。介護に。

幸太郎 おばあちゃんか。

みゆき こうちゃんと幾つ違うと思ってんの。

幸太郎 フツ。

みゆき 釣り合いとれないよね。

幸太郎 誰もそんなこと気にしじゃないよ。

みゆき そうかな。

幸太郎 あ、カメ見に行こう。

幸太郎、去る。

みゆき、幸太郎が去っていくのを見る。

喫茶店。

前後は入れ替わったままだ。

みゆき 夜ノ森公園。桜祭り。綺麗だった。

エブロン だから探したんでしょ。

みゆき なにを？

エブロン 似たところないかって。こっちで。

みゆき そうなんだろうね。自覚ないけど。

エブロン

旦那さんも一緒になって、探してくれたんですよ。

みゆき

そうだね。

エブロン

見つけたの。似たところ。

みゆき

ううん。

エブロン

そうか。

みゆき

ダメだった。夜ノ森は、夜ノ森だった。

ワンピース

思い出したんだね。

みゆき

思い出したよ。あの日の、次の日のことも。

部屋のもが、一斉に全部倒れる。

喫茶店の人々はいなくなる。

背後の人々が全員横たわる。

その中心にみゆきが横たわる。

みゆき

…。

起き上がる。

みゆき

…。

日記を探し出して、書き出す。

みゆき

気が付くと、部屋じゅうがぐちゃぐちゃになっていた。物が倒れ、ガラスが割れ、一体なにが起こったのか、まったく把握できなかった。ただ、誰かを待っていないやいけな気がして、しばらくぼーっと待っていた。

風鈴が鳴る。

みゆき

1日が経過した。携帯ラジオをかるうじてつけたところ、とんでもない言葉が飛び込んできた。なんだろう…水素爆発って。爆発。怖い。私は思わずお腹をおさえた。するとどうだろう。血が出てきた。生理だと思った。でもなにか一抹の不安が残った。窓際で、季節外れの風鈴が揺れていた。風が吹いていた。割れた窓から風が入ってくるのだろう。この風鈴はどこで買ったんだっけ。涼やかな風鈴の音色が、不気味だった。

風鈴が鳴る。

みゆき

私は待つのをやめて、歩き出そうと考えた。お腹がずーんとした。得体の知れないものが空気中を漂っている気がした。ここから離れなきゃ。そう思った。

風鈴が鳴る。

日記を書きながら、歩き出すみゆき。

みゆき

ラジオと最小限のものを持ち、歩き出した。電話は持っていかなかった。もう少し待っていきなさいけなかったはずなのだが、待っていても来ないような気がした。気づいたら公民館で、毛布にくるまっていた。日記を見返そうかと一瞬思ったが、なんだか怖くなったのでやめよう。この日記は、もう、ここに置いて行こう。何故か無性に名古屋に行きたかった。名古屋には、なにかがあるのだろうか。

風鈴が鳴る。

背後の人々が起き上がる。

ワンピース

思い出したんだ。世界が壊れた日のこと。

みゆき

思い出したよ。あなたも壊れちゃった。せっかく殺さなかったのに。

ワンピース

残念だよ。

みゆき

世界ってそう簡単に壊れないと思ってたんだけどな。

ワンピース

私もだよ。

みゆき

あれから、私は大事な記憶をしまっちゃった。

パーカー

大事な記憶。

みゆき

だるい記憶。

幸太郎が、みゆきの背後に現れる。

幸太郎

みゆき。

みゆきは振り向かない。

みゆき

3月10日。

幸太郎 うん。  
みゆき いい日だった。  
幸太郎 そうなんだな。  
みゆき いたのかな。私たちの子ども。  
幸太郎 どうなんだろうな。  
みゆき いたのかな。  
幸太郎 ……  
みゆき あの子が言うように、嬉しくて怖くて、いい日だったな。  
幸太郎 そうだな。  
みゆき だるかった。  
幸太郎 ……今もだろう。  
みゆき え？  
幸太郎 今もだるいんだろう。  
周平 みゆき。  
みゆき え？  
周平 みゆき。  
幸太郎 ……

前後が元に戻る。

周平 みゆき。  
みゆき ……しゅうちゃん。  
周平 ……どうした。  
みゆき ……うん。  
周平 それ、見せて貰っていいか。  
みゆき これは…いいや。  
周平 教えてくれ。  
みゆき ……  
周平 頼む。  
ルイ 背後の人たちは。  
みゆき もういません。  
ルイ いない？  
みゆき はい。  
ルイ そうですか。  
みゆき はい。私がすっかりしたからでしょう。  
ふりそで 嘘つき。  
ルイ 背後の人たちは、みゆきさんが会ったことのある人たちだったのでありま

せんか。

みゆき

…。

なんらかの理由でみゆきさんが忘れようとしていた人たち。それを今日からっしやるみなさんに重ねていた。

ルイ

みゆき

…。

志摩子

そうなんですか。

ふりそで

忘れようとしたんじゃないよね。

みゆき

…。

ワンピース

守ろうとしたんでしょ。

みゆき

…違いますよ。

ルイ

え？

みゆき

背後の人たちは、やっぱりみなさんが一番想っている人たちです。

志摩子

そうですか。良かった。

みゆき

ええ。志摩子さんの想いが、カタチになっていたんです。

しましま

そうだよ、志摩子。

ルイ

では、どうしてみゆきさんにはいなかったんでしょね。

みゆき

…。

幸太郎

いつも一緒にいるから見えないんですよ。

みゆき

いつも一緒に？

幸太郎

旦那さんですよ。

みゆき、周平を見る。

周平

え…。

幸太郎

そういうことですよ。

みゆき

…。

幸太郎

ね。

みゆき

じゃ、石田さんの大事な人は…

幸太郎

僕の大事な人は…

素子を掴む。

幸太郎

多分この方なんです。

素子

は？

幸太郎

だから見えないんですよ。

素子

なんですかいきなり。

幸太郎 今日ここに入った時から気になってました。

素子 は？

幸太郎 だからいいんですよ。もう。

みゆき …。

幸太郎 いいんですよ。

ルイ 石田さん。

幸太郎 夏樹さん、今日は連れてきて頂きありがとうございます。

ルイ いえ、こちらこそ。

花火の音。

素子が耳をふさぐ。

幸太郎 怖いですか。

素子 …はい。

幸太郎 お祭りはいいもんですよ。

素子 良くないです。

幸太郎 お祭りできるっただけで、幸せなことでしょう。

素子 …。

幸太郎 幸せなことですよ。

花火の音。

志摩子 私、帰ります。

百合 私も。クッションからスマホを出す(凄い、起きてる時にスマホ見なかった時間。新記録。

周平 今日はありがとうございます。

幸太郎 みなさん、良かったら、花火を観に行きませんか？

ルイ …いいですね。

志摩子 今日は記念日なので、行きます。

百合 お祭り向かうなう、と。

志摩子 あ、お金。

周平 払っておきます。

志摩子 いやそんな…

周平 大丈夫ですから。

百合 ごちそうさまでーす

志摩子 じゃ、ごちそうさまです。

志摩子たち、去っていく。

森村 ありがとうございます。

花火の音。

さゆり ここからも見えるんですか。

森村 小さいですけど見えますよ。そこ出たあたりから。

さゆり ホントですか。

さゆりが外に出る。

森村 高いマンションの右側あたりです。でもま、こっからだとちよっとしか見え

ないからなあ。

弥生 お店、任せてくれてもいいんですよ。

森村 弥生ちゃんには任せられないよ。

弥生 私これでもしっかりしてますよ。あっ！

花火の音。

弥生 でかい！マスター！早く早く！

マスターを引っ張る弥生。

マスター ほらこういう所がしっかりしてないんだよ！

と言いながら外に出るマスターと弥生。

幸太郎 神崎さん行きましょう。

素子 …でも。

みゆき 今は嫌でも、今は怖くても。昔、花火が好きだった気持ちは本当だったと思  
うんです。

素子 …そうでしょうか。

みゆき 有ったことは無くなりませんから。

素子 …そうなのでしょうか。

みゆき カメも微笑んでいます。  
素子 カメがですか。  
みゆき 見ようによつては。  
幸太郎 …行きましょう。  
素子 微笑んでいます。  
みゆき 誰がですか。  
素子 分かりません。誰かが。  
みゆき 誰かが。  
幸太郎 また。  
みゆき また。  
みゆき また。

幸太郎たち、去る。

みゆき …。

3月10日の人々が、みゆきを見つめる。

周平 良かったのか。  
みゆき え？  
周平 いや。  
みゆき …。  
周平 帰るか。  
パーカー 帰れよ。  
ワンピース とつとと帰れ。  
ふりそで 帰れパーカ！  
パーカー 君ちよいちよいひどいね。  
カメ 帰れカメ。  
エブロン ありがとうございますー。

3月10日の人々は次第に遠ざかっていく。

みゆき …うん。  
周平 実はひとつ、はっきり言っておきたいことがあって。  
みゆき …なに。  
周平 男の子なんだ。  
みゆき は？



周平 一番組に欲しいのは。

みゆき そうなの。

周平 ああ。キャッチボールに憧れててふる。

みゆき 俺ゲーム分かんないから。

周平 分かんなくていいよ。

みゆき そうか？

周平 うん、分かんなくていい。全然いい。

みゆき ……そっか。

周平 ……うん。

風鈴が鳴る。

周平 夏だなあ。

みゆき ……

周平が、りんご飴をみゆきに差し出す。

周平 食べないのか。

みゆき え？

周平 好きなんだから。

みゆき ……ああ。

周平 ……

みゆき これ好きだったー。

りんご飴を置く、みゆき。

みゆき 好きだったー。

花火の音、ひときわ大きく。

完)

台本の無断複製、使用は禁じられております。  
本に関するお問い合わせ、または上演希望は次まで必ずご連絡ください。

090・8075・0683 劇団あおきりみかん

mail@aokirinkan.com